

南北朝・室町時代

鎌倉幕府の滅亡

- ・元寇 御家人の窮乏 崩壊の原因になる。
- ・得宗家専制政治...身内人の発言権が強まる 北条氏以外の御家人の不満強まる。
- ・14代執権北条高時は才能がなく、幕政を顧みなかった。
幕府の実権は内管領長崎高資の手中に収まる。

一方、京都では

- ・後醍醐天皇が討幕計画を企図
- ・記録所を再興し、延喜・天曆時代の再建を目指す。
しかし、天皇が武力による討幕に踏み切った理由として、紛糾していた皇位継承権問題を一挙に解決するためであった。

この時の皇位継承権問題とは

- ・承久の乱後、院の決定権は幕府に握られていた
- ・北条泰時の指示により、後嵯峨天皇が即位
- ・その後、後深草天皇、続いて亀山天皇が即位...いずれも幕府の指示によるもの
- ・後深草上皇は不満を持ち、幕府に働きかけ、後宇多天皇の後に、自分の子である伏見天皇を即位させた。
こうして、皇統は亀山天皇の流れをくむ大覚寺統と
後深草天皇の流れをくむ持明院統に分離することになる。

1308年、幕府は両統が交互に即位する両統迭立の議を申し入れた。問題が複雑化するのをおそれ、1317年、文保の御和談で幕府は介入せず、両統の話し合いで皇位継承を決めなさい。

しかし、話し合いがまとまらずに、その後幕府は両統迭立案でまとめ役をすることに

そんな時、後醍醐天皇が即位したが、次の天皇として、自分の子がつ毛ないことになっていた。打開策として、幕府を倒すしかない。

討幕計画

- ・近臣の日野資朝・日野俊基らによって進められる。

- ・しかし、1324年に幕府に漏れ、資朝・俊基らは捕らえられ流される(後に許される)。天皇は無関係だと弁解し難を逃れる。...**正中の変**

天皇はこれでも諦めることなく、自分の息子の**護良親王**・**宗良親王**を延暦寺の座主に送り込み、僧徒を見方につけようとする。

しかし、またもや幕府に漏れた。天皇は逃亡

このとき見方として**楠木正成**が現れるが、河内の赤坂で幕府に敗北

天皇は**隠岐**に流され、資朝・俊基は斬られる。...**元弘の変**

以上の事件によって、北条氏に不満を持つ武士(**悪党**)の動きは活発になり、各地で反乱が発生する。

幕府は反乱鎮圧のために、**足利尊氏**を京都に派遣するが、尊氏は反旗を翻し、幕府の六波羅を落とす。

また、**新田義貞**も鎌倉を攻める。 **1333**年、鎌倉幕府滅亡、北条氏一族は自殺

後醍醐天皇は隠岐を脱出し、京都に戻り、皇位に返り咲く。...公家政治の開始

1333年、**建武の新政**

- ・天皇親政を目指す(摂政・関白の廃止)...**建武中興**
- ・武家勢力を無視できないため、鎌倉幕府の制度をも採り入れる。
- ・**記録所**の権限拡大...国政の重要事項を決議するように
- ・**雑訴決断所**の設置...幕府の引付をうけつぐ
- ・**武者所**・**侍所**...軍事・警察業務 新田義貞が就く
- ・**恩賞方**...中興事業に功績のあったものに恩賞を与える。
- ・諸国には**国司**と**守護**が併置

しかし、この新政も

- ・新政権樹立に参加した人々の期待がまちまちで、
 - ・恩賞が武家よりも公家のほうが多く、
 - ・銅銭・紙幣などの乱発によって、人心を失わせたことより
- わずか2年で崩壊

二条河原の落書...1334年8月京都の二条河原に掲げられたもの

此こ比都二ハヤル者、夜討、強盗、にせりんじ謀綸旨、めしうど召人、早馬、そらさわぎ虚騒動、なまくび生頸、還俗、

自由出家、^{にわか}俄大名、迷者、安堵、恩賞、^{そらいくさ}虚軍、本領ハナルル訴訟人、文書入
タル細^{つづら}葛^{ついでしゅう}、追従、ザン人、禅律僧、下克上スル^{なりでもの}成出者、器用ノ^{かんび}堪否沙汰モナ
ク、モルヽ人ナキ決断所、キツケヌ冠、上ノキヌ、持モナラハヌ^{しゃく}笏持テ、内裏
マジハリ珍シヤ、(後略)(「建武年間期」より)

世の中の社会不安をあらわしたものである。

南北朝の動乱

1334年、**足利尊氏**は自分を打倒しようとする**護良親王**を鎌倉に流させることに成功

1335年、北条高時の子、**時行**が兵を挙げ鎌倉を陥れる(**中先代の乱**)と、尊氏の弟である直義は親王を暗殺する。

尊氏は鎌倉を回復すると、**新田義貞**を討つこと目的に兵を挙げる。

北畠顕家の軍に追われ、九州に敗走

再び、京都に上り、摂津湊川で**楠木正成**を敗死させる。

後醍醐天皇を廃し、持明院統の**光明天皇**を立てる。

後醍醐天皇は京都を脱出し、皇居を**吉野**に移す...**南朝** **北朝**...京都の政権以後、南朝と北朝は自己が正当な天皇であることを主張し争うことになる。

この動乱により、御家人社会の血縁的結合である**惣領制**が崩れ、地縁的な結合によって各地に有力な武士集団が生まれつつあった。

地方の武士集団の指導権をめぐる争いと南北朝の争いが混合

1338年、**北畠顕家**・**新田義貞**戦死

楠木正成の子である**楠木正行**も1348年四条畷の戦いで戦死

懐良親王は一時太宰府をおさえたが、鎮西探題の今川了俊によって圧迫されていた。

南朝側不利

しかし、北朝側はこのような状況下でも南朝を一気に押しつぶすことができなかった。

背景

- ・吉野が難攻の地であること
- ・足利氏の内紛

...1338年足利尊氏が**征夷大將軍**に任じられ、執事の**高師直**を中心に地方の武士を引き入れた新しい政権を作ろうとしていた。しかし、弟の**直義**は鎌倉幕府的な政権を作るために尊氏と対立 **観応の擾乱**へ 直義戦死、その後も争い続く この内紛も**足利義満**の代になって、ようやく治まることになる。

南北朝の合一

1392年、**足利義満**の呼びかけに

南朝の**後龜山天皇**が応じ、皇位を北朝の**後小松天皇**に譲位する形で

南北朝の合一が実現

しかし、南朝側の人々はやりきれない思いで、応仁の乱頃まで小競り合いをしていた。また、後世、**南北朝正閏論**を引き起こすことになる。

守護大名の成長

新たな幕府の担い手となったのは**守護大名**であった。

- ・1346年、足利尊氏は**刈田狼藉**(領地争いにおける実力行使)を取り締まる権限と**使節遵行**(裁決の執行)という二つの強制執行権を認め、守護の権限を強化した。
- ・**半済令**...荘園領主に納入すべき年貢の半分を守護に対して兵糧米として、差し出すことに 守護の荘園侵略に拍車をかけることに
- ・国人...有力名主層かせら成長した中小武士集団 多くは守護の家臣になる
- ・**守護請**...荘園領主が荘園の安全を確保するために、守護に年貢の徴収を請け負わせる。

以上のように守護は強大化し、守護大名へと成長、その領国を守護領という。

室町幕府の成立

1338年、**足利尊氏**は北朝から**征夷大將軍**に任じられ、**京都**に幕府を開く。

1378年、3代將軍**義満**の代になってから、幕府の地位が安定し京都の**室町**に新邸(**花の御所**)を営んだ。以後、**室町幕府**と呼ばれるようになった。

義満のねらい

統一政権の実現

1392年、**南北朝**の統一

將軍権力の確立

有力守護大名を抑えること

このころの有力守護大名、代表的なものとして、山名氏(山陰地方を中心に 11 力国の守護を持つ)...**六分一殿**
大内氏...周防を根拠地として、6 力国

このような有力な守護大名を抑える方法として

一、武力による方法

- ・ 1390 年、**土岐氏の乱**...美濃・尾張・伊勢の守護である土岐康行を討つ
- ・ 1391 年、**明德の乱**...山名氏清を挑発して倒す
- ・ 1399 年、**応永の乱**...大内義弘を刺激し、堺で滅ぼす

二、天皇の権威を利用する方法

- ・ 1394 年、義満は將軍を子の義持に譲ると、**太政大臣**に任じられ、1407 年には自分の妻を皇后などに準ずる准母とし、1408 年には北山第(**金閣**)に後小松天皇を迎えた。また、上皇の尊称までも朝廷に要求した。

幕府の組織

鎌倉幕府の組織に非常に類似している。...尊氏の理想が鎌倉幕府の再興にあったから

鎌倉幕府の武家の法令である**貞永式目**をそのまま採用、必要に応じて新令を追加している(**建武以来追加**)。

鎌倉幕府と異なる点は將軍に独裁権を与えたこと

中央(京都)

- ・ **管領**...將軍を補佐する役職。鎌倉幕府の執権ほどの権力はなく、足利氏の一族である斯波・畠山・細川の三氏が任じられた(**三管領**)。
- ・ **政所**・**侍所**・**問注所**...鎌倉幕府のよりもその権限縮小、単なる事務機関に過ぎなかった。京都の警備を司る侍所については、重要な地位と見られたので、その長官(所司)に山名・赤松・京極・一色の四氏が任じられた(**四職**)。
- ・ **評定衆**・**引付衆**も置かれたが、実力はなかった。

地方

- ・ **守護**...地方支配機関、鎌倉時代の一人一国ではなく、一人で数力国も担当するものもいた。

- ・ **地頭**...鎌倉時代とさほど変わらず。
- ・ **鎌倉府**...尊氏の子基氏が最初に**鎌倉公方**(鎌倉御所)に任じられ、以後、その子孫がこの役職を担当。鎌倉幕府の**六波羅探題**の役割を逆にしたもの。その執事として、上杉氏が**関東管領**の任についた。
- ・ そのほかの地方...**九州探題**・**奥州探題**・**羽州探題**・**中国探題** これらはいずれも世襲化の傾向が強かった。

財政面

- ・ **御料所**(直轄地)からの年貢米
- ・ 守護・地頭への経費の賦課...以後次第に守護・地頭の勢力が強まり、要求が通らなくなった。
- ・ **関銭**(通行税)・**津料**(関税)・**段銭**(田畑に掛ける臨時税)・**棟別銭**(家屋に掛ける臨時税)・**倉役**(高利貸を営む土倉に対する税)・**酒屋役**(酒造業者に対する税)

倭寇と日明貿易

元寇以後、**元**との国交はなかったが、私貿易は盛んだった。

足利尊氏は**天龍寺**を建立する資金を集めるために、**天龍寺船**を元に派遣した。

このような平和関係も、南北朝の動乱期に**倭寇**によって乱された。

倭寇とは、北九州地方の土豪によって組織化された海賊 朝鮮・中国まで荒らしていた。高麗の滅亡も倭寇にあったかもしれない。

南北朝から室町初期の頃の倭寇を、**前期倭寇**と呼ぶ。

対して、16世紀から展開された倭寇のことを**後期倭寇**と呼ぶ。...東シナ海や南洋を中心に活動していたが、その主体は日本人よりも中国人やポルトガル人の方が多かった。

このころの東アジア

中国

1368年、**元**滅亡、**明**誕生

復習...中国の統一王朝 隋 唐 宋 元 明

朝鮮

1392年、**高麗**滅亡、**李氏朝鮮**誕生

1419年、**応永の外寇**...倭寇討伐を目的に対馬を襲う。

1443年、**癸亥約条**(嘉吉条約)...朝鮮貿易を対馬の宗氏だけに限定、**通信符**を

用いて貿易。貿易港を富山浦・乃而浦・塩浦に限定(三浦)、三浦と漢城(現在のソウル)に倭館を置いた。

1510年、三浦の乱...日本人居住民と朝鮮人との大衝突

復習...朝鮮の統一王朝 新羅 高麗 李氏朝鮮

琉球

14世紀半ばごろに中山・北山・南山の三王国成立

15世紀前半に中山王尚巴志が三王国を統一し、首里(現在の那覇)を本拠地とし、琉球王国を成立

日本と明との間の中継貿易を行っていた。

勘合貿易(日明貿易)

- ・足利義満は明との通商を決意
- ・倭寇取り締まり、肥富某・租阿を明に派遣
- ・勘合(通行証みたいなもの)を用いた貿易を開始、1547年までに11回、勘合船を派遣

勘合船は明の寧波で査証を受け、そこで始めて上陸を許可された。

日本からの主な輸出品...銅・硫黄・金・刀剣・扇・漆器など

中国からの主な輸入品...銅銭・生糸・絹織物・錦糸・砂糖・陶磁器など

貿易の実権は主に幕府の直営船だったが、大名や寺社も船を出していた。

応仁の乱後は、大内氏やそれと結ぶ博多商人・細川氏とそれと結ぶ堺商人がもっぱら貿易に当たることになった。 度々対立 1523年寧波の乱へ発展

このころの農村

- ・惣・惣村の形成...農村の自治組織

背景1...荘園という人為的な支配体制の元で、共通の利害関係を持っている村むらが幾人もの領主に分割支配されることは不便であった。

入会地の利用・用水の分配などの問題が多かった。

背景2...領主や地頭の不当な要求に対抗

惣が近隣の村と結合し結合した広域自治体を郷という。

このような結合体を郷村制という。

惣の指導者は地侍とよばれる武士的な性格を有する名主であり、かれらの中から、番頭・沙汰人・おとなとよばれる村役人が選ばれた。

惣は彼らを中心として寄合(重要事項を決定する場)によって運営され、それは宮座で開催されていた。

惣には規約(村掟・地下掟など)があり、秩序が守られていた。

年貢の収納については、百姓請(地下請)を行い、惣が責任を持って領主に納入した。

土一揆

農民の地域的結合の成長 荘園領主や守護大名へ対抗

- ・ 愁訴・強訴(集団訴訟)・逃散(耕作放棄・荘外逃亡)によって対抗していた。
- ・ 後に武力による対抗 土一揆...その目的は主に徳政の要求(徳政一揆)、畿内で頻発

徳政とは、寺院・高利貸からの借金の貸借関係を破棄する証文

1428年、正長の土一揆...畿内全域に及んだ一揆、京都の土倉・酒屋が襲撃された。

1429年、播磨の土一揆...守護赤松氏の支配権を奪い取ろうとする土着の武士が起こす。

以後、永亨の乱・嘉吉の乱により幕府の支配が揺らぐと、土一揆は連年のように発生した。 1441年、嘉吉の土一揆

幕府の衰退と応仁の乱

4代将軍義持の代以降、幕府の地位は不安定になる。

- ・ 上杉禅秀の乱...鎌倉公方足利持氏に不平をもった関東管領上杉禅秀が反乱

その後5代将軍義量が早世したあと、

6代将軍義教はくじ引きで決定され、これに反対した鎌倉公方持氏を義教は討つ...1438年、永亨の乱

赤松満祐は1441年に自邸で将軍義教を殺害 幕府は山名持豊を播磨に派遣し、満祐を討伐...1441年、嘉吉の乱

1440年、結城合戦...結城氏朝が持氏の遺子を奉じて、上杉憲実に対し反乱

応仁の乱

6代将軍義教の後、7代将軍として義勝が跡を継いだ。が、早世したため、8代将軍として義政が継ぐ

しかし、将軍を補佐する人材がなく、彼の代に徳政令を13回も出した。…幕府の財政は底をついていたことになる。

徳政令を出すにしても、債務者が債務放棄の代償に分一銭(元金の1/10)という手数料を要求していた。

義政は贅沢を好み、室町邸を再造し、東山に銀閣を建立した。

また、妻の日野富子は政治に関与し、賄賂政治を行い、高利貸しを営み、京都の諸口に関所を私設し、関銭を徴収していた。

幕府の権威失墜へ

応仁の乱の直接的原因

- ・ 将軍家の跡目相続問題…義政の弟義視を一時後継ぎにし、管領細川勝元を後見人とした。しかし、その後、富子に義尚が生まれ、富子は山名持豊を後見人とした。
- ・ 畠山家の家督相続争い
- ・ 斯波家の家督相続争い

1467年、畠山両軍の衝突発生 京都で細川・畠山の争いに 応仁の乱へ

1473年、細川勝元・山名持豊が相次いで亡くなると、戦乱は次第に終息へ

1477年にはうやむやのうちに乱終了へ

この間、京都のみならず全国でも守護内部の争いなどが発生していた。

11年間の戦乱で、京都の町は無茶苦茶…足軽の乱暴などによる。

将軍の権力は山城一国ぐらいにしか及ばなくなった。

その後、約100年間にわたる戦国時代が始まる。

産業の発達

農業

- ・ 二毛作(麦・米の栽培)
- ・ 商品作物の栽培普及…綿、楮、荏胡麻、西国では藍、東国では茜など

農業以外

- ・塩田業...揚浜法 入浜法へ発展
- ・鉱業...金(甲斐)・銀(但馬、石見)鉱山の開発 大名の経済源へ
- ・手工業...座(西洋ではギルドという)を組織し、専門の手工業者が誕生(これまでは農業との兼業)
- ・地場産業...京都の西陣織、播磨・越前などの和紙の生産

商業の発達

- ・市場の開催...六斎市(月に六度開催)
- ・行商...遠隔地への商品販売を担う
- ・町人の誕生...都市定住の商人(これまでは農民が市に来て商売をしていた)
- ・座の発展...同業者が組合を形成し、免税権と商品仕入・販売の独占権が与えられた。その構成員を座衆、その保護者を本所という。後の戦国時代に座を廃止し、楽市・楽座政策が行われるように

貨幣の流通...所得の単位については銭の額ではかるように...貫高制(永高制)の採用

遣明船によって、永楽通宝や洪武通宝が中国より流入、
(鎌倉時代にも唐銭・宋銭・元銭が輸入されていた。)

戦国時代には、質の悪い銭が流入し、質のよい銭を選んで取引をする撰銭が頻繁に行われるようになり、大名はしばしば、撰銭令を発令し、撰銭を禁止した。

為替の更なる普及...遠隔地間の取引を担う割符屋という為替業者が発行する為替手形(割符)で決済された。

高利貸業

- ・土倉・酒屋・寺院がこれを担う 土一揆の攻撃的
- ・一般庶民の金融機関として、頼母子・無尽が盛んだった。

交通の発達

水運...定期船廻船(大型船)の運航

陸運...馬借・車借(いずれも陸上運送業者)の誕生

旅行...伊勢参宮、西国三十三カ所巡礼

関所...関銭徴収のため

山賊・海賊の登場により、道中は危険なものになっていた。

室町時代の文化

- ・ **南北朝文化**...鎌倉から室町の過渡期の文化
- ・ **北山文化**...義満の時代の室町幕府隆盛期の文化
- ・ **東山文化**...義政の時代の文化、禅宗色が濃い

仏教

- ・ 臨済宗...上級武士の信仰を得た。**無窓疎石**は足利尊氏の帰依を受け、幕府の保護を受けた(**五山の制**)。民衆の中にも入り込むようになる(**一休宗純**)。
- ・ 曹洞宗...武士の信仰を受けたが、修行・戒律が厳しすぎて民間には浸透せず 公益事業を推進する能登の**総持寺**を中心とする一派が生まれる。
- ・ 浄土宗...四派十三流に分かれ、特に**西山派**と**鎮西派**の勢いがあつた。
- ・ 時宗...茶道・連歌・能楽などの芸能面で活躍
- ・ 浄土真宗(一向宗)...農民達に浸透 **仏光寺派**と**蓮如**を中心とする**本願寺派**(正統)に分離 後者の派が農民の間に広まり、巨大組織化し後に**加賀一向一揆**を起こすことになる。
- ・ 日蓮宗...町衆の間で普及、しかし、1532年に**法華一揆**を起こし、本願寺を焼く、1536年に**天文法華の乱**によりその勢力は壊滅

学問

有識故実

- ・ **建武年中行事**...後醍醐天皇によるもの
- ・ **職原抄**...北畠親房による

歴史文学

- ・ **神皇正統記**...南朝側にたつもの、北畠親房が記す
- ・ **増鏡**...後鳥羽天皇から後醍醐天皇の代までの歴史書
- ・ **太平記**...南朝側からみた南北朝の戦乱を描いたもの
- ・ **梅松論**...足利尊氏(北朝)側からみた戦記

庶民文学

- ・ **連歌**...一つの和歌を2人で上の句・下の句を詠むもの
- ・ **俳諧**...**山崎宗鑑**など
- ・ **能**...**観阿弥**・**世阿弥**により絶好調に

建築・美術

寺院

- ・ 禅宗様(唐様)が発展、しかし、奈良では和様が盛ん。禅宗様 + 和様 = 折衷様

住宅

- ・ 書院造...義政による東求堂が代表的

この時期の代表的な建築物

- ・ 鹿苑寺の金閣...足利義満によるもの
- ・ 慈照寺の銀閣...足利義政によるもの

庭

- ・ 池泉を使わず小石のみで山水を表現する...枯山水

絵画

- ・ 水墨画...雪舟が代表的
- ・ 大和絵...狩野正信・元信父子が代表的

生活

- ・ 衣服の簡略化...直垂が男子の礼服に(鎌倉時代は武士の普段着)、女子の場合は小袖が礼服に
- ・ 甲冑の発達...華麗な鎧の衰退へ
- ・ 一日三食(それまでは一日二食)
- ・ 豆腐・麺類・こんにゃくが食されるようになった。
- ・ 喫茶の普及...侘び茶 村田珠光によって始められ、千利休によって大成
- ・ 華道の発展...池坊流の基礎に

文化の地方普及

- ・ 応仁の乱 京都の公家・僧たちは地方に避難 地方に文化普及
- ・ 特に大内氏の根拠地である山口では盛んに 西の京
後にはキリスト教の布教を許したり、大内版とよばれる印刷業をも手掛けた。
山口では桂庵玄樹、南村梅軒という朱子学者が誕生
他にも肥後の菊地氏は城下の隈府に孔子廟を建て、玄樹に儒学の講義をさせた。
- ・ 薩摩の島津氏も玄樹を招き、朱子学を盛んにした。 薩南学派の誕生

関東では足利学校がつくられ、僧侶などの教育が行われていた。